

**S6**

**イタリア手話とフランス手話の複合語に関する類型論的考察**

ミルコ・サントーロ  
(ジャン・ニコール学院 [フランス])

**要旨**

**背景：** swordfish (剣+魚=「カジキ」) のような逐次的複合語は、音声言語にも手話言語にも観察される。一方、手話言語では、複合語構成要素を左右それぞれの手で同時に発するような複合語が存在し得る [6]。加えて、手話言語の語彙の複雑性ゆえに、中核的語彙要素、類別要素、頭字要素などの可能な組み合わせも豊富である [5]。これまでの類型論的分類の中に、同時的複合という項目はなく [1]、この種の複合語はこれまで本格的な分析を受けてこなかった [2]。

**目標：** 発表者はイタリア手話とフランス手話の複合語を調査する。分類の基本となるのは手話単語の語彙的特徴 (中核的語彙、類別要素など) である [5]。発表者は分散形態法 (Distributed Morphology) に基づいた複合語の理論的分析を提案する [2]。

**データ：** イタリア手話とフランス手話の母語話者を対象にフィールドワークを行った。いくつか例を示す。

	複合語の種類	イタリア手話	フランス手話
(1)	逐次的・中核的語彙どうし	心臓 ^ 爆発「心臓発作」	母 ^ 父「両親」
(2)	同時的・中核的語彙どうし	なし	手話 ^ 教える「手話講師」
(3)	同時的・類別詞どうし	もの CL ^ もの CL「心臓発作」	操作 CL ^ 形 CL「心臓発作」
(4)	逐次的・指文字 ^ 中核的語彙	C ^ 所有「文化」	H ^ スポーツ「ハンディスポーツ」

**分析：** (i) イタリア手話とフランス手話の複合語の分布は、類型論的な差異を見せる。中核的語彙要素どうしの同時的複合語は、フランス手話では生産的なものに対して、イタリア手話では許されておらず、イタリア手話で同時的複合語として許されるのは類別詞どうしの複合語のみである。発表者は、この違いの原因として、複合語構成要素の語彙範疇に対する制約が言語ごとに異なるのだと提案する。統語論・意味論の観点から言うと、逐次的で修飾的 (attributive) な主要部内在型複合語は、フランス手話には見られるがイタリア手話には見られない。同時的複合

語の存在を説明するため、発表者は、引用文献 [1] の提案する現在の類型論的分類法に、新たに逐次的・同時的の区別の層を加えることを提案する。

(iii) 形式化のレベルでは、逐次的複合語は非対称の派生によって生じる [3] のに対し、同時的複合語は、カテゴリ付与以前の段階で語根どうしを結合する [4] ことによって生じる。

#### 参考文献

- [1] Bisetto & Scalise. 2005. The Classification of Compounds. *Lingue e linguaggio* 4(2): 319-320.
- [2] Embick & Noyer. 2007. Distributed Morphology and the Syntax/Morphology Interface. *The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces*, pp. 289-324.
- [3] Harley, Lieber & Štekauer. 2009. *The Oxford Handbook of Compounding*.
- [4] Snyder. 2001. On the Nature of Syntactic Variation: Evidence from Complex Predicates and Complex Word-formation. *Language* 77(2): 324-342.
- [5] Brentari & Padden. 2001. Native and Foreign Vocabulary in American Sign Language: A Lexicon with Multiple Origins. *Foreign Vocabulary in Sign Languages*, pp. 87-120.
- [6] Meir, Aronoff, Sandler & Padden. 2010. *Sign Languages and Compounding. Compounding*. pp. 573-595, John Benjamins.